

消費税収初の20兆円超

20年度予算案 法人税の倍近く

政府が二十日に決定する二〇二〇年度予算案で、消費税収が初めて二十兆円の大台を超えることが分かった。一九九九年は半年分だった消費税増税の増収効果が年間を通して出るため、二十一兆円台に達する見通しだ。所得税を上回り、消費税が最大の税目となる。

消費税は税収が景気変動を受けにくく財源として安定しているなどの理由で、一九八九年の導入以降も段階的な増税が続き、税収全体の三分の一を支える形となった。これに対し、税率を引き下げてきた法人税は二〇年度の税収が十二兆円程度にとどまる見通し。低所得者も含めて幅広い人に負担が及ぶ消費税が法人税の二倍近くの税収を占める

構図には、企業優遇との批判も出そうだ。

二〇年度の税収見通しでは消費税収が二十一兆円台と、一九九年度当初予算比で二兆円以上の増収となる。一方、所得税収は二十兆円

弱だった一九九年度当初と同水準にとどまり、法人税収は数千億円減の十二兆円程度とする方向だ。

税収総額は六十三兆円台と一九九年度当初予算の六十兆四千九百五十億円を上

回り、過去最高を見込む。企業業績の陰りで法人税が減るものの、消費税収の増加に加え、政府が税収見積もりに使う二〇年度の名目成長率を2%超と高めに設定することも影響し、金額が伸びる。

消費税収は、税率3%で導入された初年度が三兆三千億円で、5%に引き上げられた九七年度は九兆三千億円に、税率8%になった一四年度には十六兆円に増えた。